

評価領域	学習指導
------	------

重点目標	分かる授業の構築と補充・回復指導の充実	P
現 状	<p>昨年2学期末生徒アンケートより、①「先生たちは、わかりやすい授業にするためにプリントや学習カード、ビデオ、パソコンなどを使用したりして、工夫していると思いますか」の設問で、十分（33.0%）、まあまあ（54.7%）の合わせて87.7%であった。</p> <p>また、②「先生たちは、学習した内容がしっかり身に付くように、わからないところやよくできなかったところについて、丁寧に指導してくれていると思いますか」の設問では、十分（20.0%）、まあまあ（52.8%）の合わせて72.8%であった。</p>	
具体的な目標	上記現状①②について、「十分」「まあまあ」を合わせて、1学期末1ポイント以上アップ、2学期末は2ポイント以上アップさせます。	
目標達成のための方策	<p>① 授業研究会の充実を図る。（チームによる指導案検討会の実施）</p> <p>② 学担による家庭学習ノート（自主学習）の点検と励ましをする。</p> <p>③ 5教科（国・社・数・理・英）を中心として、補充指導の場を工夫し、点検と励ましをする。</p> <p>④ 各種評価結果（諸テスト）から、下位層を中心に個別指導、補充指導、回復指導を行い（始業前・放課後・部活休止日の放課後など）、学習内容のより定着を図る。</p> <p>⑤ 日々の授業への教材研究（授業構成・発問・評価など）に努める。</p>	
具体的な取組状況	①については予定どおり実施。②については、がんばっているが、ノート提出率が悪い状況も見られる。③④については、国語や英語で放課後、根気よくできている。⑤については、教材（プリント、視聴覚機器など）を工夫、活用するとともに、どの教科も生徒の主体的な活動場面を工夫して行い、楽しく分かる授業の構築に努力できている。	D
達成状況	<p>①一学期末 → 4.2アップ 二学期末 → 5.7アップ</p> <p>②一学期末 → 15.8アップ 二学期末 → 10.3アップ</p>	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<p>①について、昨年は8割であったが、今年は9割以上の生徒が、先生たちは授業を工夫していると感じている。</p> <p>②について、昨年は7割であったが、今年は8割に達している。</p> <p>先生たちは「分かる授業」、「丁寧な指導」について、生徒からは概ね良い評価を得た。</p>	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの学年別の結果はどうか。 ・教科ごとに評価してもらうことも大事である。 ・方策④の指導で成果は上がっているのか。 ・1年生の数値が来年度も維持できていれば、努力の評価ができる。 ・3年生は受験があるのでせっぱ詰まっているが1・2年生はそうでもない。だから、個々に目標を設定して取り組ませるのはどうか。それが達成できれば評価できる。 ・生徒の能力に応じた目標を工夫して設定し、達成感を持たせることにより成果が上がるのでは。 ・家庭との連携が大切なので具体的な目標を家庭にも伝えて協力してもらうのもいいのではないか。 ・生徒が先生を評価するのは違うのではないか。生徒が自分を評価することの積み重ねであれば学習の定着につながる。生徒の自己評価によって生徒が変わってくる。それによって改善点がみえてくる。 ・生徒・先生・親の自己評価を生かせないか。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・成績上位層への支援の工夫をする。 ・生徒の個人目標の設定を工夫させ、自己評価を通して学習への取り組み姿勢の改善につなげるとともに、家庭への協力、連絡を大切にしていく。 ・各教科ごとの授業評価（教師・生徒）、評価の観点を工夫して実施する。 ・将来の夢や目標を抱くことができるよう、学年の発達段階に合わせたキャリア教育の充実を図る。 	A
-----------------------	--	---